

総動員伝道

総動員伝道の目標

1. すべての人に福音を伝えよう。
2. すべてのクリスチャンがよいあかし人になろう。
3. すべての教会が成長しよう。

荒野で叫ぶ声

総動員伝道 代表 姫井雅夫

荒野で叫ぶ者の声がする。

「主の道を用意し、

主の通られる道をまっすぐにせよ」。

(マルコ1:3)

破壊はあつという間の出来事です。でも建て上げには時間がかかります。

一、荒野で叫ぶ声

昨年、テロと自然破壊の猛威に恐れおのぎました。日本での台風と地震、さらにスマトラ沖の地震による大津波。そして今年に入ってもアメリカにおける洪水と大雪、オーストラリアにおける大規模な山火事。いったいどうなっているのだろうかと思うほどです。

昨年の夏、総動員伝道では三重県海山町にトラクト配布をしました。お世話くださった古橋医院が、直後に台風に見舞われ、大きな被害を受けました。医療器具、カルテ、コンピュータなど大切な物が床上1.5メートルの浸水でめちゃくちゃになりました。直後は電話が不通だったのですが、話ができるようになって様子うかがいました。なんと「コンピュータもリセットするではありませんか。私たちもリセットして再スタートです」と明るい声で答えてくださり、ホッとしました。

荒野とは何とも暗示に富んだ表現です。この部分はイザヤの預言です。その成就としてバプテスマのヨハネが荒野で叫びました。罪が赦されるための悔い改めのバプテスマを説きました。「荒野」とは今の時代を表現しているように感じます。近代的な高層ビルが立ち並ぶ都会ではありませんが、「荒野」を思わせる世情です。

二、主の道を用意せよ

現代の同胞の心は硬く、主を受け入れる素地が無いように思えます。以前のように大衆伝道は難しく、教会相互が協力して伝道することが好まれません。とするならば、言い古されたことではあります。が、「ひとりごとを」と言う原点に戻って伝道すべきではないかと思えます。総動員伝道では、ひとりひとりを主に導いていこうと信徒訓練を勧めています。

荒野のようなすさんだ心をもっている同胞のために、すべてのクリスチャンが「良い証人」になってひとりがひとりに福音を伝えていければ、荒野はサフランの咲く美しい世界に変わっていくと思えます。

三、主のために

H・A・アイアンサイドが次のように書いています。「ある紳士がふたりの伝道者の説教を聴きました。彼は『パーカー博士は偉大な説教者だ』と言い、『スポルジュンは偉大な救い主をもっている方だ』と言ったというのです。ことは巧みに話すよりも、生き様がキリストを表す方が人々の心を捉えるのでしょうか。

私たちクリスチャンは自分のことを語るのではなく、自分にしていただいた神の恵みを語り、あかしするのです。

現代の「荒野」で、私たちは救い主イエス・キリストを大胆にお伝えする者でありたいと願います。あなたでなければ福音が届けられない人々があなたの周りに居ます。今年は去年よりも一人でも多くの方にイエスのことを伝え、いただいている恵みをお分かちしましょう。荒野に主の道を用意しましょう。



毎年、11月になると、教会インフォーメーション・サービスが前年と比較しながら教会の動きをお知らせくださいます。最近の報告から資料を提供しましょう。

日本の総人口は126,824,166人です。大体1億2千7百万人といつて良いでしょう。約13万人増えています。これから、少子化時代に生まれた人々が親になつてくると、総人口は減少へと傾いていくことでしょう。労働力が少なくなつてくるので、今の産業を支えていけなくなるのではな
いかと心配になります。

次にクリスチャンの総人口をみると、557,718人と報告されています。増えているのか。増えているのです。2,660人増えました。もしクリスチャンがひとりひとりを導けば、当然、もう55万人増えることになるわけですが、そうはいきません。そこで3人でひとり
を導けば、13万人増えることになり
ます。でも現実には約3千人増えているので、190人でやつとひとり
を導けたという計算になります。やはりクリスチャンが整えられて主の業に
励むようにすることが大切なこと
再認識させられます。教会で特別伝

伝道メモ

49



道集会やコンサート、会食、キャンプ、放送伝道、トラクト配布などいろいろな方策を考えて伝道していますが、やはりひとりごとを導くという人間関係伝道がかぎのような気がいたします。多くのノンクリスチャンを友だちにして、人間関係から導いていくというのが日本的ではないか
なと思います。親戚、近所の人、会社の仲間などの関係を密にしてい
くということではないでしょうか。

教会の数はどうなつてい
ます。増えたのでしょうか。7,784と発表されて
います。増えたので
しょうか。いいえ、
22教会が減つたの
です。牧師の高齢化
は一般社会と同じ
です。高齢になつたので、教会を
辞任なさいます。その後を継ぐ、若
い献身者が起こされてい
ないのです。市でありながら、教会が
無いというのが10あります。最近
は村や町が合併して市になつていま
す。行政面積は広くなりました。市
とは名ばかりで、人口の中身も因習
や宗教事情も変わ
りません。
ひとつひとつの教会の働き、ひとり
ひとりのクリスチャンの生きた証
の生活が問われています。
主よ、日本を憐れんでください。



(信徒のためのセミナー)

小助川 次雄

第六課「教会形成と成長を妨げる要因」の学びの8回目です。

「3」次に教会の運営にあるかも知れない原因の続きの考察です。

3、組織体としての教会の運営の仕方に問題があるかもしれません。

教会は、言うまでもなく一種の組織体です。このことは、聖書でも

いろいろな表現で書かれています。

このことを考えるときには、前にも学んだように、「教会とは何か」ということの基本的な理解を前提

におかなければなりません。

普通、教会には、教会憲法や規則があります。それは、教団あるいは各

個教会単位として、神の摂理的な導きの下で決められてきて

ことです。ですから、お互いに尊重しているものです。信徒は、それぞ

れ属する群れの一員としてそれらを順守することは当然です。ここで

は、そのことについて何かを言うことを考えていません。

任意に作られる組織の面については、よく考え、祈りつつ運営することが大事です。

例えば、教会における交わりと奉仕を考えれば、壮年会、婦人会、青年会などのグループ会や教育部、伝道部、福祉部、祈禱部、総務部、その他の委員会なども考えられます。

信徒の賜物が生かされ、活動を秩序と効果のあるものとするためにはこのような組織化は自然に必要なになります。

しかし、継続しているうちに、いろいろな問題が生じて来

ます。疲れ、慣れ、マンネリ化、硬化など、また、行き過ぎや行き届か

ないことなどです。さらには、いつの間にか「主客転倒」の感

覚えることがあります。信徒のために組織化されているのか、組織のた

めに信徒が動いているのか曖昧になり教会生活が苦しくなつてしま

うこともあります。そのようになら

ないように注意と祈りが必要です。

主は「安息日は人間のために設けられたのです。人間が安息日のた

めに造られたではありません」と言われたこと(マルコ五・27)を覚

えるべきでしょう。組織運用の潤滑油と言つて良いでしょうか。聖霊に導かれて進みたいと願います。

◆ウィリアム・クラークと日本伝道

北海道の広大な草原、羊が丘展望台に立つクラーク像は有名である。



彼は、1826年7月31日にアメリカ、マサチューセッツ州アッシュビルに生まれた。ウィリントン・セミニリーで

学んだ後、1844年アムハースト・カレッジに入学した。兄弟が多かったため学費を払うのに苦労したようである。彼が専攻したのは鉱物学で、集めた標本がいい値段で売れて学業を無事に続けることができたそうである。1850年、ドイツのゲッチンゲンにあるゲオルギア・アウグスタ大学に入学し、隕石に含まれる金属の化学構造に関する論文で、地質学博士号を取得した。1853年、ハリエット・リチャーズと結婚。1861年、南北戦争にマサチューセッツ第21義勇軍少佐と

して参戦し、武功を立てて准将まで昇格した。1863年、マサチューセッツ農科大学を新設し、1876年に学長に就任した。

1876年5月15日、アムハーストを出港し、7月31日札幌に到着し、8月14日には札幌農学校の開校式をした。当時の札幌には約900戸、3000人に満たない人口だった。そして何と翌年の4月16日には日本を離れている。別れに関しては劇的な話がある。次第に劇的になっていった趣がある。札幌から20キロほどはなれた島松(シマップ、現在の北広島市)まで学生たちがついて行った。別れを惜しむ学生たちにかの有名なことは、ボーイズ・ビー・アンビシャスを残し、馬に乗って林の中に姿を消したというのである。

農学校1期生は16名だった。そのひとり大島正健がクラークとの別れを漢詩にした。その文章に「青年奮起功名」とあるのを逆翻訳したのが、例のことばであろうと言われていた。しかし、この大島が札幌農学校創立15周年記念式典でした講演を、安東幾三郎が記録した文書が1895年の同窓会誌「憲林」に載っている。そこには、Boys, Be ambitious like this old man (自分のような老人でさえも希望をもって

いるのだから、あなたたち若い人も希望を持ちなさい」と記録されている。

内村鑑三編集の雑誌「Japan Christian Intelligencer, Vol. 1, No. 2」に大島が同じ文章を書いている。私たちクリスチャンは Boys, Be ambitious in Christ(God). とクラークは言ったと聞かせられているが、1期生にはそのことばを確認する人はいない。ある資料にはこれはクリスチャンの創作であると記している。

いずれにしろ、短期間の在日であったにもかかわらず、このような深い印象を当時の学生に与え、またそのことばは今も多くの人々の心にくっきりと刻まれている。

さらに彼が当時の学生に与えた感化のひとつは「禁酒」である。アメリカの学生には飲酒によって人生を狂わせているものが多かったので、この悪風に染まらないようにさせたいと願った。

札幌の飲み水は良くないと聞いていたクラークは上等のぶどう酒をたくさん持参した。しかし禁酒を勧めるべきであると決意したクラークは全部廃棄し、学生たちに禁酒誓約書を書かせた。クラークは就任してすぐに、「学生諸君は紳士であれ。紳士は自分のことは自分で始末すべし。自分を制するもの

に規則はいらぬ」と言って校則を廃棄した。なのに、禁酒に関しては誓約書を書かせた。クラークの思いを知った学生たちは著名に応じた。ある学生は「先生のお陰で一生涯酒盃を手にするこなく安全な世渡りができた」と述懐している。

本国に戻った後のクラークの晩年は失意の連続だった。大学を辞した後、鉱山経営、クラーク・ボスウェル社を始めたが失敗し、倒産をめぐる裁判で悩まされ、1882年、心臓病で倒れ、寝たり起きたりを繰り返す不遇な日々を送った。1886年3月9日、59歳でこの世を去った。左の写真はアムハーストにあるクラークの墓地である。

クラークから感化を受けた人々の中に内村鑑三や新渡戸稲造がいる。クラーク自身が日本の宣教にどのような影響を与えたかは直接には測れない。しかし、彼から感化を受けた人々によって日本宣教は大きな恵みを間接的に受けたことになる。



●献金者、芳名
 04年11月～05年1月
 (敬称略・順不同)

教会・団体

秋田恵みキリスト、インマヌエル
 清水、宇都宮栄光、大阪栄光、蒲郡
 キリスト、名古屋一麦、大阪一麦、
 アチーブメント、NZ日本大阪、東
 京国際基督、本郷台キリスト、世田
 谷中央、松本キリスト、荻窪栄光、
 小川イエス福音、腰越独立、城間ナ
 ザレン、白鷹キリスト、日基赤坂、
 日基赤羽、日基川之江、日基香川豊
 島、久我山宣教、金沢中央、横浜シ
 オン、兄弟団杏の里、兄弟団宇都宮
 兄弟団成増、兄弟団北見栄光、兄弟
 団境キリスト、兄弟団一宮、兄弟団
 福岡、兄弟団三ツ境、兄弟団米沢、
 兄弟団石岡、池の上キリスト、サン
 タクララ、宣教会代田、松山協同、
 横浜福音、キリストの福音大分、下
 北沢聖書、田村町、北条希望の丘キ
 リスト、希望クリスチャン・センター
 島田、申良キリスト、前橋聖契、那
 覇バプテスト、グッドニュース伝道
 会、JEC千代田福音、安城キリス
 ト、蕨福音自由、NLCおもちゃの
 まち、四日市キリスト福音、日本伝

個人

道隊名草、復活之キリスト往生地、
 同盟稚名町、同盟大井、軽井沢中央、
 大和カルバリー、ときわ聖書、ナザ
 レン牛久、福音伝道浜川、恵安(株)、
 茶屋町復活、狭山キリスト、長井、
 京浜キリスト、津豊ヶ丘キリスト、
 大室高原キリスト、東京カベナント、
 日本イエス南陽、仙台南吉成キリスト
 秋山進、浅野浩一・和子、岩崎ひ
 とみ、今井寿、小田切享、岡江保和
 岡本良二、唐渡弘、川平朝清、清弘
 和海、姫井雅夫・栄子、高岡嘉子、
 池田ルイ子、小河美子、栗原義忠、
 砂川富子、小林国重、森山信子、加
 藤雄剛、加納武、上田道子、二輪謙
 太郎・たか子、今井万紀子、石井薫
 林富貴子、小助川次雄、羽鳥明、深
 谷春男、北條和人・孝子、大川従道、
 高橋茂和、高橋重信、高橋ゆり子、
 谷口稔・紀子、中垣路津子、並木サ
 イ、五十嵐茂子、秋山常男、塩島光三、
 村上隆三・妙子、信太紀二、館内貴子、
 須田八重子、田村救世子、尾原信彦、
 尚子、新村真一、山崎正子、千野静
 香、古川道隆、森田益兆、佐藤義則、
 佐藤紀子、佐藤光義、坂東悦子、川
 内美津子、山根隆行、長橋和彦、晴子、
 野田禎、桑畑直子、湊崎勇



第六〇話

韓国教会研修旅行

1月17日から21日にかけて「日々
 みことば」出版委員会主催の韓国教会
 研修旅行に参加しました。今回は非常
 に斬新な教会を訪問でき、印象に残り
 ました。

主に二つの教会を訪ねました。一つ
 は地球村教会です。この教会は急速に
 成長し、現在会員が約2万人。倒産し
 たデパートを買い取ったその半分が教
 会。地上8階、地下2階。特徴は12人
 を単位とする小グループの活動。みん
 ながお客さんではなく働き人になるこ
 とが目標です。建物内にはキリスト教
 書店、喫茶店、図書館、祈りの部屋、
 各分級室などが幾つもあり、充実して
 います。会堂は最上階で3500人が
 一同に礼拝できます。

もう一つは五輪教会です。ここはソ
 ウルオリンピックを機に開拓された教
 会で、昨年12月に新会堂が建ったばか
 りです。地上10階、地下4階。最上階
 はそのフロアみなバスケットコート。
 多くの若者が来ていました。礼拝堂は
 コンサートができることを目的とした
 作り。2500席。1階は結婚式会場。
 両教会とも新しい試みにチャレンジジ
 し奮闘していました。
 住吉英治

●ご支援、感謝いたします。

厳しい中を通りながらも、皆さん
 の力強いご支援をいただいで感謝一
 杯です。

今年は事務所で「伝道セミナー」を
 開催する計画を立てました。1回目と
 して大嶋義隆師をお招きして「三浦綾
 子文庫伝道」について講演をうかがい
 ました。折を見て内容をご紹介します
 と考えています。

また地方にうかがってセミナーを
 する計画もあります。6月に山口県
 で実施しようと考えています。

ご支援をよろしく願います。

12月会計

収入	638,445
活動費	41,729
ニュース印刷発送	135,218
部屋代	195,118
人件費	0
積立	10,000
支出計	382,065

2005年3月1日発行
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
 OCC、614号室

総動員伝道

03-3291-5035
 03-3291-5266
 Eメール sodoin@ybb.ne.jp
 ホームページ
 http://www.gospeljapan.com/
 sodoin/
 振替 00140-1-107255
 代表 姫井 雅夫
 編集 住吉 英治
 定価 10円 (送料別)
 印刷 新生宣教団 (2,800枚)